



国史跡「阿津賀志山防塁」の史跡整備に向けた発掘調査と整備計画の策定を進めます

阿津賀志山防塁は、文治5年（1189）源頼朝率いる鎌倉軍による奥州侵攻を防ぐため、奥州藤原氏により築かれた3.2 kmの長大な要塞施設です。遺跡のスケールと繰り広げられた合戦が奥州藤原氏の終焉・伊達氏誕生に大きくかわり、鎌倉幕府成立へとつながる時代の転換点となったことから、昭和56年に全体の約3分の1が国史跡へ指定されました。平成20年度からは、範囲確認の発掘調査を継続的に実施し、11月20日、国文化審議会において史跡範囲の追加指定（掲載写真箇所）が答申されました。国見町では、1000年のまち国見の歴史性を象徴する阿津賀志山防塁の整備を通じて歴史まちづくりを進めるため、発掘調査による基礎データの収集と整備計画の策定を行います。

整備計画の策定

11月12日、整備計画と整備に向けた調査の指導を行うため、阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会（委員長・入間田宣夫東北大学名誉教授）の第1回合会が国見町役場で開催されました。委員会では、今年2月に認定された「国見町歴史まちづくり計画」や今年6月に策定した「阿津賀志山防塁整備基本構想」の方針を具体化するため、歴史・造園・観光・住民活動等の分野で活躍する方々と、防塁の整備について議論していきます。

入間田委員長へ委嘱状を交付する太田町長

発掘調査

国見町教育委員会は、防塁整備に向けた第16次発掘調査を10月6日から国道4号北側地区で行いました。同地区は、内堀が良好に残り、土塁の痕跡も確認できますが、外堀は埋め立てられ詳細が分かっていませんでした。調査では、外堀と構造を確認するため4か所で調査区を設け、幅約5mの外堀および凝灰岩（国見石）を削り出した内堀、その排土を盛っている土塁などの構築手順が判明しました。

11月3日開催の現地説明会にて外堀を公開

平成27年度国見町文化財講演会を開催します！

- 日時：平成28年1月30日（土） 午後1時30分
- 場所：観月台文化センター
- 講師：平泉町役場 八重樫忠郎氏

平泉研究を進め、世界遺産登録に携わられた八重樫氏より、平泉から見た阿津賀志山防塁について語っていただきます。

◆問い合わせ 生涯学習課生涯学習係 ☎ 585-2676



小坂地区で鳥獣被害対策の侵入防止柵を設置

近年、町内の中山間地域では野生鳥獣による農作物被害が頻発し、人的被害の恐れも高まりつつあります。このような状況の中、小坂地区では個人での被害防止対策は限界があることから、地域ぐるみ（地区共同）での被害防止対策の取り組みとして、10月24日から、小坂地区の各町内会において侵入防止柵（ワイヤーメッシュ柵）の設置作業を～

実施しています。この事業は、町地域農業再生協議会の鳥獣被害防止総合対策事業により、侵入防止柵の整備を要望した地区に対し、町協議会が柵等の資材を交付し、地域ぐるみで柵の設置作業や維持管理作業を行うものです。小坂地区においては、農家非農家問わず多くの地区住民の参加と町鳥獣被害対策実施隊員の協力のもと、設置作業を進めています。町では、小坂地区以外の地区においてもイノシシを中心とした鳥獣被害が発生していることから、鳥獣被害が減少するよう、今後と

も地域ぐるみの鳥獣被害対策を推進していきます。

～侵入防止柵としてワイヤーメッシュ柵を設置しています～

- 5mm 径の鉄線を組み合わせた金属柵で大きさは縦 1.2 m × 横 2.0 m です。
- 電気柵が動物に軽い電気ショックを与えることで侵入を防ぐ心理柵であるのに対し、ワイヤーメッシュ柵は建築資材としても使用される丈夫な金網により、物理的に侵入を防ぎます。
- ワイヤーメッシュ柵も定期的な点検や草刈等の維持管理が必要ですが、電気を流さないため電気柵と比べて維持管理の手間は少ないです。

設置した侵入防止柵